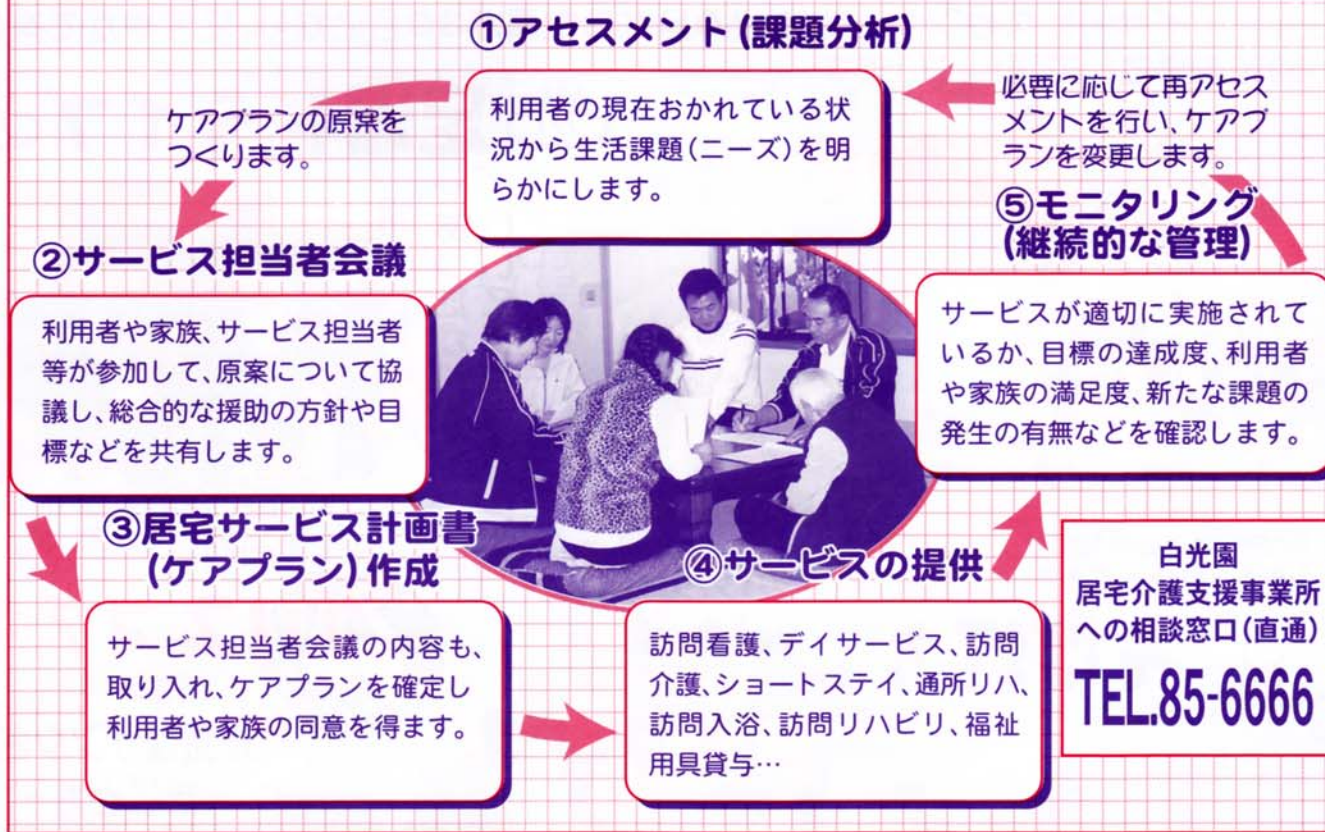


居宅介護支援… ケアマネジメント(介護支援サービス)の流れ



デイサービス 新介護予防への取り組み…

『介護予防』とは?
一人ひとりが介護を必要とすることなく自分らしく生きることを実現する手立て↓

『からだづくり、なかまづくり、生きがいつくり』

◎運動の機能向上
機能訓練を必要とする方に対して行います。
(リハビリ等を行い、介護度の改善を図ります)



センター内で機能訓練を行っています。

◎栄養改善
低栄養状態の恐れのある方に対して管理栄養士が中心になり多職種と協働して行います。
(心身状態や意欲等も把握することで、その人に合った食事を提供します)

平成18年4月より、新介護予防という新たな介護認定区分が加わります。デイサービスではサービス内容の更なる充実を図ります。



◎口腔機能の向上
口腔機能の低下の恐れのある方に対して、専門的な立場で指導を行います。
(食後に口腔ケアを行っています)



高齢者の皆様に贈るメッセージ

白鷹福祉会理事長 新野晃敏

月日が経つのは本当に早いもので、第二次世界大戦が終了してから既に六〇年と言う歳月が経過致しました。この間、日本は目覚ましい経済発展を成し遂げましたが、同時に私達は世界でも例を見ないスピードで高齢社会を迎えることになりました。わけても白鷹町では平成十七年の高齢化率が二九パーセントを越え、三人に一人が六十五歳以上と言う町になりました。平成十二年に介護保険制度がスタートしてから五年が経過し、今年には様々な制度改革が行われようとしておりますが、身の回りのことが十分に出来ない後期高齢者が増加してきたために、

施設では希望しても入所出来ない待機者が増え、在宅で生活する場合にも老人を介護する所謂老老介護が問題になって参りました。第三次小泉改造内閣では、初めて少子化問題担当の大臣が誕生し、少子化問題に一括して取り組むことになりましたが、深刻な社会問題になっている人口減少や高齢化の根源はまさに少子化であり、専任大臣の登場は少子化問題を少しでも改善させることが、高齢者問題を解決する一助にもなるという時代のニーズに応えた結果と思われまます。

「歳月、人を待たず」と言う諺がありますが、かく言う私も

今年ついに高齢者の仲間入りを果たすことになりました。今年五月、私にとつては人生最大の師であり白鷹福祉会の初代理事長でもあった父の十三回忌を迎えますが、最近では、年輪を重ねることによって初めて理解出来ることや見えてくるものもあるのではないかと、思うようになりました。統計上は六十五歳以上を高齢者と言っておりますが、高齢者には高齢者ならではの知恵がある筈です。数年前赤瀬川源平と言う作家が言われたように、物忘れをするようになっても嘆かないで、「老人力」がついたと言つて落ち込まずに割り切ることが大切だと思います。現在



大きな社会問題になっている少子高齢化の傾向は、残念ながらこれからしばらくの間は続くと思われまますので、高齢者になつたからと言つて直ぐに身を引いて若い人のお世話になるのではなく、自らの健康は自ら守る努力を続けながら、身体が動く限りは積極的に社会に関わり、主体的に生き抜いて下さるようお願い致します。